

令和4年度第3回社会教育委員会 会議録

日 時 令和5年3月17日（金）9時30分～11時20分

場 所 市役所6階会議室

委員	委員 長	谷勝 公代
	副委員 長	岡本 教穂
	委 員	田中 亨胤
	委 員	高瀬 由美
	委 員	松尾 弥生
	委 員	中村 和子
	3名 欠席	
事務局	教 育 長	民輪 惠
	生涯学習課 課長	北島 悦乃
	生涯学習課 課長補佐	高見 和哉
	生涯学習課 職員	近藤 優佳

1 開会

2. 社会教育委員長あいさつ

（委員長）

おはようございます。今日は村上さんと学校の先生方がご欠席ということで、11時半終了の予定ですが、スムーズに簡潔に、でも、中身は濃く終わらせていけたらと思っています。

よろしくをお願いします。

3 教育長あいさつ

（教育長）

今年度の最後の会議ということで、皆様、年度末のお忙しい中、ご出席いただき本当にありがとうございます。本日の議題は、「公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会」の答申がメインだと聞いております。

中央公民館を除いてSTEAMラボが新設されたんですけど、ご覧いただけましたか。ご覧いただいた方はいらっしゃいますか？誰もおられないですか？

やっぱりそれが現実ですね。実際に常設して活用しているのは今のところ善防公民館だけで、私はそれでは意味がないと思っています。

学校にも小中学校、特別支援学校の全てに入っていますし、総合教育センターに

もラボは入っています。学校は教師がおりますので、STEAM 担当の教師がかなり前向きに積極的に STEAM ラボを活用してくれております。例えば「僕この教室ですと勉強したい、だって楽しいもん」というような小学生のつぶやきも伝わってきて、やっぱり学校は楽しくないと駄目っていうところがそこから始まっていったらいいなと思っています。

また、先日も宇仁小学校の 6 年生が教育長室に行きますと言っていたんですが、新設された STEAM ラボを使いたいと言って、実際にラボを使って大変楽しそうに教育長への提言を発表してくれました。小学校は随分活用してくれていると思いますし、先生方も楽しそうに使ってくださっていますので、大変良いことだなと思っています。

一方、公民館は職員の人数も少なく、場所がないということで、講義室と共用で置かれたままで、このままだったら以前のパソコン教室みたいに埃をかぶってしまうのではないかと、最新器具が活用されるには程遠い状況ではないかと、担当者は大変心配しております。あくまでも公民館の希望に沿って設置したわけで、いらないなら教育委員会に一つ持っていきたいという声も出ているほどです。新しいことをしたくない、現状維持というのは後退です。

新しい挑戦をするには、時には強い情熱と意思で壁を越えなくてはならない局面があります。4 月から新しい館長が 2 人就任されます。ほんとうは女性も入ってほしかったのですが、なかなか女性の応募者はいらっしゃいません。ただ、お二方も前職で責任のある立場にいらした方ですので、これを機に公民館を変えたいと強く思っております。

STEAM ラボの活用が一番の現実的なテーマとしてありまして、私が把握していないだけかもしれませんが、全く活用がされていないというのは良くないと思っています。

なぜ STEAM ラボを公民館に設置したかということ、やはり若い世代に自由に使ってもらって、魅力のある新しい公民館のあり方を求めていくためです。若い世代に公民館に来てもらって、360 度カメラとか 3D プリンターとか大型スクリーンとかコンタクトしたらどこも繋がるという最新機器を入れているわけですから、そこで新しい風を吹かさなければ、せっかく高額の予算をつぎ込んでも、宝の持ち腐れになってしまうと思っています。

入ったばかりのラボですが、それを一つの改革の入口にしたいと、大いに期待していますので、皆様方も現場でご覧になって具体的なご指導、アドバイス、ヒントを与えていただければ大変ありがたいと思います。

話が変わりますけれども、3 月は来年度の予算を決める市議会が開かれており、24 日が最終日です。他の委員をなさっている方には、同じようなことを申し上げたかもしれませんが、社会教育委員の皆さんにも頭の中に留めていただきたいソフト部門の予算の概要をお伝えしておきます。あくまでも市議会に上程している予算案ですので、決定は 24 日の市議会最終日になりますが、もう一般公開されております。

いろいろあるんですが、社会教育委員会ですので学校教育課のものはパスします。

公民館のあり方にも関わってきますので、まず、教育総務課の新中学校基本構想策定事業です。その中に公民館を入れて複合施設にしたらどうだろうとか、いろんな意見もございまして、そこには来年度に基本計画に取りかかるための予算を

1,000万円ぐらい置いております。

公共の建物、建築物については、よく「箱物」と言われるんですけど、これは単なる建物ではなくて、それを建てた自治体のビジョンとか、世界観とか、あるいは文化度ですね、民度とも言いますけれども、そういうものを目に見える形でわかりやすく表現する大変重要なものだと私は考えております。

そういうことをいろいろと話し合いました、未来型児童館や新中学校の建設、また、新公民館の建設もあり得るわけですので、単なる箱物を建てるハード事業ではなくて、教育のあり方、市のあり方を目に見える形で示すソフト事業だということ、首長部局とも議論をしているところです。

こども未来課には、未来型児童館の基本計画を来年度策定するために、それだけで約800万円の予算をおいております。

公民館運営や文化財管理を行っている生涯学習課にも、公民館でSTEAM教育などを推進するために、事業費を500万程度置いております。皆さんもSTEAM教育として、やりたい事業があれば予算をおいておりますので、上手に使っていただけたらありがたいなと思います。STEAMラボを大いに活用していただいて、例えば、善防でやっている事業を360度カメラでお互いにつなげば、南部公民館とも学校のラボとも繋がります。もっといろんな形で、共同で学習することがシステム的にはできるようになっております。

また、生涯学習課では、玉丘史跡公園の整備が課題になっておりまして、国・県の予算に加えて市単独予算でも1,200万円ぐらいの予算を置く予定です。これを聞くと微々たるものなんですけど、なかなか獲得するのも大変でして、教育費は今回かなりおいてくれていると喜んでおります。

総合教育センターでは来年度から校内フリースクールを設置いたします。その事業に1,500万円程度おけることになると思います。最初、その案が出てきた時、2年間考えてほしいと言いつつ、出てきた案が校内フリースクールだったので、私はちょっと気色ばんだんですけども、やっぱり登校できない子にもいろんな子がおりまして、別の入口から入れて、楽しい雰囲気のある教室を作れば、学校に行けるんだ、本当は学校に行きたいんだという子どもも結構います。

何もしないより一歩進んだ方がいいと判断しまして、校内フリースクールを置くことにさせていただきました。これが終点ではありません。全くの入口でございます。これが学校に行けない中学生とか、そのご両親にも、多少でも新しい光になればというふうに強く願っております。

校内フリースクールは、北播磨で初めての試みで、これすらもできてなかったのだということに軽いめまいを感じます。

数字ばかり並べましたが、予算は来年度に我々がやろうとしている事業そのものでございますので、皆様には今の課題だけではなくて大きな方向性を理解していただくことも大切だと思ってお話させていただきました。

新聞報道でもご存知だと思いますが、加西市は来年度、子育て支援を含む人口増対策の充実に約7億円。脱炭素先行地域に指定されていますので、それを目指す施策に6億円つぎ込みます。

令和4年11月に脱炭素先行地域に選定され、環境省から予算を50億円近く交付されることになりました。これは加西市が単独でとったものです。誰かの助けとかではなく、単独でいろいろと交渉して環境省から50億円がおりました。全国1718市町村がありますけれども、選定された市町は現在46市町しかないんです。

この2年間、私が来てからでも本当に加西市は様々な挑戦をしています。今まで種をまいてきたことがちょっとずつ芽を出してきているんだと思います。

デジタル田園都市国家構想で3億円とったと喜んでいたのが、今回は50億円だから、桁が違いますよね。市の職員は一步、半歩挑戦してきたんだと思います。

国がやろうとしていることもそうですけれども、世界的な課題に挑戦しなければ、皆と同じようなことを、穏やかにやっていたんでは、絶対国家予算なんておりてきません。

加西市は、子育てにやさしいまちづくり、次世代型の探求型先端教育など子育てと教育に本当に力を注ぎ込んで、他のことも大変先端的なことに挑戦しています。

私は、加西市が前に進んでいるという明るい躍動感を実感しています。皆さんはご不満も多々あると思いますが、今、前向きに進んでいるということを前向きに評価いただきまして、色々なことに声を上げていただいて、それを受けて誠実に動きたいと強く願っております。

そういうことをご理解いただきまして、加西市だけでなく、加西市教育委員会の応援団として、一緒にチャレンジしていただきますように、よろしく願いいたしますご挨拶いたします。

4. 協議事項

(1) 公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会について

(事務局)

～加西市公民館・オークタウン加西の発展のための基本計画について説明～
(委員A)

基本的な概念を把握するうえで、加西市の場合、生涯学習課に社会教育と公民館を置いておられますが、二つの概念があるんですね。社会教育と生涯学習について加西市はどんなふうに考えているか。例えば、社会教育をA、生涯学習をBというグラフにして、離れた丸が二つあるのか、或いはだんだん近寄って行って接している。或いは重なり合っている。或いは、全く皆既日食のように、融合的に一体的なものなのか。そういう概念の検討は、加西市はどうしているのか。例えば三田市は公民館をなくしましたが、加西市は、以前から地域の拠点として生涯学習というキーテーションとしての公民館として大事にしていきたい、地域から愛着を受けている加西市の社会教育公民館というのがありますよと県でも報告しています。

行政的には生涯学習課に公民館を置くみたいなのがありました。私も県の生涯学習審議会を長年やってきまして、その際には、委員Dも一緒にお付き合いいただいていたんですが、県もまだ社会教育は、教育委員会にあるんですけど、三田市の場合、生涯学習は首長部局にあります。教育委員会に置くと、どうしても学校教育に重点を置くという亡霊にこだわってしまって、予算も教育長がご挨拶されたように従来からの枠組みになると、規制されてしまうところがあるんだろうと思います。

今日の報告書でも条例を積極的に変更していくという記述もありますが、条例改正となると、首長部局でないとなかなかうまくいかない。教育委員会の中だけの条例改正っていうのはなかなか難しい話ですからね。

加西市は、社会教育と生涯学習をどのように考えているのか、どちらかに統一するのか、統一する場合に全部じゃなくて、生涯学習という概念の中に、公民館とか

いろいろなものをどのように無理なく生かしていくか。

STEAMを取り入れるには、公民館だけでは無理だと思います。生涯学習という概念でやれば、サポートシステムができていくのかなという感じがします。

スタッフを配置することも、どこからスタッフを配置するか、公民館だから教育委員会のメンバーからだけになると困りますので、首長的な判断で、全庁的に凄腕の連中も、短期的でもいいから配置していくということも非常に重要だと思います。

もう1点、STEAMのことで外国の話をするとう非常に失礼なんですけど、アメリカのアラスカとか、離島とか僻地ですが、ローカルじゃないんです。そこには、地球規模的な宇宙観測をするスペシャリストがいます。地政学的には僻地だけど、すごいスタッフがいて、世界中から情報が集約されたり、通信ができています。

大阪の長居公園は、今はテントハウスがなくなりましたが、そのテントの中では、最先端のIT機器を持ち込んで仕事をしていました。新宿の都庁の近くも、段ボールハウスがなくなりましたが、そこでも同じです。だから、テントハウスだから段ボールだから、田舎だから遅れているということはないんですね。世界的視野からおっしゃっていましたが、その辺の概念も含めて、公民館はいろんな地域にあり、交通的に不便だとしても、不便ではないんです。

(教育長)

いまは、どこに住んでいても同じです。友だちが北極圏に住んでいますけど、常に連絡がきます。

(委員A)

なかなか概念を作る、計画に盛り込むというのは限界があるとしても、この冊子は非常によくできていると思いつつも、基本的なコンセプトは社会教育と生涯学習の概念の上に成り立っている基本計画だと思いますので、その辺の整理が必要だと思います。

(教育長)

これを作るのが目的で会議をしたわけではないですよ。これを作ってどうしていくかということが一番大事で、そこにはもっと熱がないとできないという気がします。

(委員A)

その辺のところをきちっと押さえつつ、これを作成しておかないといけないと考えます。

(委員D)

委員Aのおっしゃっていることと関連しているのかなと思いながら、お話を聞いていたんですけども、これは市役所が、教育委員会が考えたんですよっていう感じを持ちました。ここに利用者の声は活かされているのかなとすごく感じました。若者を呼び込みたい、若者がもっと利用して欲しい、そのためのSTEAM。STEAMはこの辺では加西しかやってないしすごい売りです。

例えば、社会科の学習は、教科書を何回も読むより、そこへ行けばわかることがたくさんあると思います。先日、三木だったと思うんですけど、平和学習で沖縄の中学校と繋いで、お互いに自分たちの町をPRしていました。沖縄は歴史があって、南部戦跡っていうけども北部でもいろんな残虐なことがあったんです。私たちはそれを勉強していますという交流をただけで、子どもたちは教科書何十冊分ぐらい勉強するわけです。

国際的なことでも言えて、本当に正直言いまして、高齢者よりも対象者は絶対若い世代だと思うので、そういう人たちはその STEAM について実感を持っているとか、意見が言えるとか、場所があるとか、聞いてもらえるとか。そこは生涯学習の分野になりますよね。いわゆるボトムアップという形の考え方なんですけども、社会教育が古いとは言わないんですけど、どうしても教育という色が強くなると、型にはまって、こういうことが用意されているからどうぞみたいになっちゃうんで、もっと本当に市民の皆さんの声が活かされる、聞く場面があればいいのではないかと思います。

例えば、この計画の中に公民館で若者の声を聞く集いを開催するということが定例化していったら、若い子たちもここへ来ていいんだと思うことができます。STEAM ラボがありますし、Zoom で参加もできれば、若い子や子育て中の方も参加できるだろうし。その前に Zoom 講座を開催するとかも良いと思います。

今は生涯学習が主流だと思うんですけども、市民の声が活かされるとか市民の声が届くっていうところからでない活用されないのかなと思います。

(教育長)

計画は、きれいにまとめてあるんですけど、やっぱり私たちはこう考えておりますと言っても、誰が聞くのか、これは誰が読むのかという話にもなりかねないと思います。もっと中学生のワークショップとか、ママさんや市民のワークショップとか、そういうことを公民館でやっていかないと、市民の気運は盛り上がらないのではと思いますね。

中学生には、帰り道に公民館に寄って自由に楽しんで欲しいんですが、中学校はそれを禁じているとも聞きました。乗り越えるのは大変なんですけど、学校の考え方を、変えるほど魅力のある企画を立てるとか。

(委員 D)

基本的に、通学路には学校は責任はないです。責任は門までで、門を出たら家庭の責任になるので。だから何で何か起きたらとビクビクするのかなと思いますが。

(委員 A)

委員 D も私も校長経験者なので、寄り道をせずちゃんと帰りよって言っていた立場ですが、三田市の場合、制服を着て行ける多世代交流館があるんです。ちゃんと寄り道してよい場所です。加西市も公民館に寄って帰りよ、公民館は良いよって言えたらいいんだけど。

(教育長)

そのためにはやっぱり今のままじゃなくて、例えば小学生が「僕ここでいつも勉強したい」と言ったみたいに、楽しい場、そして自習もできたり、話もできたりする場であってほしいですよね。未来型児童館でやりたいと思っているけれども、未来型児童館も 1 つだけなので、それぞれの公民館の近くには中学校もあるし、もっと自在にできるようにするための一つの切り口として STEAM ラボを作ったわけです。

(委員 A)

大人から言うと、帰りにちょっと立ち寄ってみたい、そこへ行くと良いコミュニケーションができるということが必要。

(教育長)

無料でコーヒーとか紅茶くらい飲めたっていいわけです。

(委員 A)

三田市の駅前にキッピーモールがあります。その6階にも、多世代の人が来るんですが中高生、大人、高齢者もいらっしゃって、周辺にそれとなく見守っている人たちがいます。印刷機もあります。

(教育長)

3Dプリンターがあるようなところに行きたいじゃないですか。使ってみたいじゃないですか。

(委員 A)

学校、子どもたちを対象にしたら学校帰りに立ち寄れる魅力が必要。これがSTEAMだよっていう、これが公民館にあるよっていうぐらいにしておけば気軽に毎日行けます。

(教育長)

サードプレイスなんですよ。不登校の子も昼間は学生は誰もいないから、ちょっと行って勉強してみようかなあとか、そこに大きなスクリーンがあって、自分の行く学校の授業を見るとか、今はいくらでもできるわけですから。

(委員 A)

不登校の子どもはものすごくスキル高いですよ。そういう子どもたちがいて、学校帰りの子どもたちが教えてっていうと、やっぱり自分の存在というのが非常に肯定的に受けとめられていくと、少しずつ気持ちがね、こことからだが、動きだしていくんです。

(教育長)

小学校は、家に帰れない子は学童にということになっているんです。でも中学生になると行くところがないんです。だから図書館を使っている子も結構な割合でいます。やっぱりみんなどこかで、家に帰るだけがすべてじゃなくて、そういうところで知り合ったり、自分だけでやりたい人は自分だけでやればいいしってような、公民館はそういう場所になれないかな、中学生が立ち寄れるように学校とも話し合えばいいなと思っています。

(委員 D)

昨日、子ども家庭庁の担当大臣が、高校生とセッションして、いろいろと言われていたんです。その子たちはやっぱり家庭にいろいろ問題がある友達がいたりとか、親と一緒にいたくない、家庭が辛い場所であるとかということなども、すごくしっかりしゃべっていました。

(教育長)

小学生も中学生も高校生もすごいですよ、ちゃんと考えているんですが、学校が聞かないならここで聞いてやってほしい。定期的に学生が集まる機会を作っても良いわけです。いくらでもすることがありますよね。

(委員長)

先ほど委員 A がおっしゃったみたいに教育委員会の中に生涯学習がある。私たちも10年ほど、社会教育委員に入らせていただいていますけど、教育委員会の中にあると予算もないし、大きい計画は立てられない。この度、公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会に、副委員長と私と入らせていただいております、いろんな意見が出ますが、あくまでも教育委員会からの報告の形でしかないんです。

(教育長)

例えばいろんなイベントは全部、機構改革されて、文化スポーツ観光課に行きました。私はその時いませんでしたので詳しいことはわかりませんが、生涯学習では

動かないし、堅苦しい教育みたいになってしまうので、できないと多分そういうことだったと思うんです。

でも、私は、教育としてやるべきことがあると思っています。だから教育委員会は予算がないではなくて、やりたかったら予算を取ったらいいいんです。それは現場も考え方を変えないと駄目で、同じことをやっついてはできるわけありません。

例えば、新中学を建てるには30億、40億かかるんです。それを教育委員会がやるか、それとも都市計画課がやるか、でも、教育委員会が絡まないと中学校はできません。なぜかというソフトだから。来型児童館でも、今までなら建物を建てるから首長部局がやっていましたが、やっぱり教育委員会がきちっとした考え方と、コンセプトをある程度持った上でハードを建てないといけない。多分20億ぐらいかかるとしています。結構大変なことだと思いますが、首長部局と一体となって、巻き込んでやっていきます。

小さな話でも、生涯学習課にやる気があれば何でもできます。予算が取ればいいので。それを全部市長部局に移すとどうなると思いますか。すべてがイベントになります。

(委員長)

生涯学習課では、社会教育や公民館だけでなく、文化財で神輿を新調・修復したり、いろんな文化財の役割も生涯学習にあります。生涯学習課には何人の職員がいらっしゃるんですか？見ている、本当に回らないと思うんですよ。

(教育長)

委員長のおっしゃることはわかります。今まで生涯学習は端に置かれてみたいな雰囲気でした。でも、今変わっていく必要があります。私は正直、大変重要な部署だと思っています。これを文化・観光・スポーツ課に移したら、もっと大きいことできるかもしれません。ただ、基本的に文化・観光・スポーツですので、そこではフォローできない大事なものがあるだろうと思います。もちろん、文化・観光・スポーツ課も良いことをすごくいっぱいやっていますけども、ただイベントをやるのではなくて、後に残っていく、積み重ねていけるもの。文化的なものは生涯学習課がやるべきだと思います。

(委員長)

私もそれを求めて、今までおつき合いさせていただいてきたんですけれども、先ほど委員Dが校門を出たら、学校は関係ないとおっしゃいましたけれども、この前、ある学校へ行きましたら子どもが帰りに溝にはまったということで学校は大変です。校長先生が車に乗せておられました。また、子ども同士でけんかして、顔にけがをしたということで親御さんがすぐにお菓子を持ってきておられました。もう大変ですよ。学校は理屈で割りきれられるようなものではなくて、身近で見えていましたら本当に大変だなと思います。

親御さんも、はっきりおっしゃいますし、綺麗な部分だけじゃなくて、人と接する上で、繋がっていい繋がっていいと言いますが、本当に繋がっていけない人が今も出てきているじゃないですか。自由な意見を言っているがゆえに、皆の繋がりの中に入れない。そんないろんなリスクが出てきている時代だと思います。コロナの感染もあり、その中で今、社会教育が本当に大事だと思うんです。先ほど教育長がおっしゃったみたいに、そこをどういうふうに力強く考えて推し進めていくか大事な時期に来ていると思います。公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会でもい

ろんな意見が出ていますけれども、そこまでは難しいとかいうプレッシャーはかかっています。

(教育長)

委員長が言われていることは正しいです。それは私の中でも感じていて、現場はどうしても、できない理由を探ることが多いです。

でも、それをそのまま認めていったら新しいことは何もできません。だからやっぱり今みんな汗をかかないといけないときなんですよね。

私は、生涯学習課も含めて、この公の場で厳しいことを言っていますけれども、頑張らないといけないんですよ。自分たち、自分の子どもたちの未来というものは、もちろん紙の上で書いたように綺麗ごとでは済みませんが、綺麗事がきちっとないと変わっていきません。これがビジョンというものです。そのビジョンをちゃんと構築しないとイケない。現実はこちらだからと言って、破れた障子の桜紙張りをしていても現実は変わっていきません。

(委員長)

公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会の委員長もいろんな、素晴らしい意見を出してくださるんです。でもやっぱり方向を変えないといけない、言葉を変えないといけない、加西の地域性なども本当にすごく考えて、探っていらっしゃると思うんです。

(委員 A)

この終わりの文章は素晴らしい。着地点はここだなと思うんですよ。

ここからもう一度、社会教育を考えていくと、非常にいいなと思います。ここまではちょっと行政的な取りまとめみたいなのですが、終わりは良いと思います。

社会教育、生涯学習について最初ちょっと話しましたが、社会教育は脇を固める取り組みだと思います。生涯学習はきちっとやっていく。抽象的なことを言いましたけど社会教育の生涯学習、学校教育も、家庭教育もですね、考えてみれば、二つの軸、ベクトルがあります。

一つは人づくりです。社会教育は人が育っていくんです。学び合っていくんです。

生涯学習だってそうですよ。それが無いといけません。学校教育はもちろんそうです。家庭教育もそうです。まずは人づくりという軸が、この終わりのところで、見え隠れしている、非常に素晴らしいと思います。

もう一つは、人づくりを支える地域づくり、社会づくりです。加西市というローカルな非常に狭いエリアももちろん大事でしょうけれど、加西市として、或いは日本社会として、或いは世界地球規模として、どのように社会に繋がっていくか、この二つの人づくり、地域づくり。そういう観点で見たときに、この終わりのところはある程度感じ取れると思いますので、この辺を出発点として、もう一度このブランドデザインというか、これからのプランニングを手堅くしていけばいいんじゃないかと思います。

(委員 C)

この基本計画、ほんとうに概念としてよくできているなと思うんですけど、惜しいなと思うところもあって、課題を検証して挙げておられるんですが、各施設の抱えている課題が自由な形式で上がっていて、本当は「施設について」「主催事業について」「登録団体について」「登録者の利用層について」「出前講座について」「地域との協力交流について」「人材育成について」「社会還元・社会貢献につい

て」「生きがいづくりについて」というふうに項目別に分けて、課題を出したらもっと出てきたんじゃないかなと思います。

その課題をていねいに拾えないと、そのあとが出てこないわけで、課題の記述が自由な様式になっているのがもったいないなと思います。

もう1つは拝見しているとプロデューサーがずっと出てくるんですけど、プロデューサーはこんなに絶対いません。生涯学習課に社会教育主事資格を持った人1人呼んでくるのが難しいのに、公民館にプロデューサーを配置するのは難しいです。

それからプロデューサー頼みという部分がすごく多いです。でも、そのプロデューサーが1人でも見つかったならば、ぜひともして欲しいのは、今年はこれをメインで進めましょうという話を決めて、各公民館で同じような講座があった場合には調整していくことです。

魅力ある講座を作って公民館を活性化していきますというのは、小野市も三木市も加西市もどこの町も同じこと言うわけで、多世代に利用してもらうことをねらいますっていうのも、今年も来年も再来年も同じことがいえるわけなんですよね。

では、具体的に魅力的ある講座づくりはどうするのかという話になるんですけど、先ほど出た若い人の意見を聞くワークショップとか、公民館に行かない人たちの意見を聞くとかをしていく必要があります。

今は、うちの公民館はこの講座をやりますって言ったなら、それが多分通るんです。だけど、それは4公民館で本当に調整がとられていたりとか、今年はこれでいこうという目標みたいなものがあったりとかそういうことなくって、ちょっと名前を変えたりとかして同じことを長く続けているものも多いです。もちろん、名前を変えることも大事なんですけど。

だけど、そういったことをやって、画期的に人が溢れるわけでもないし、今年も来年も一緒という話であれば、もったいないですよ。

最近、明石の公民館がすごいです。明石は公民館じゃなくてコミセンで60館ほどあるんですけど、館長の意識改革を3年かけてやりました。

館長自体がプロデューサーの意識を持っており、他のところの講座も把握しているし、利用者の声を聞きたいと思っているし、それを講座に生かしているし、高齢者大学「あかねカレッジ」も、今までよくあった高齢者大学からもう少し人づくりの方に主軸を移して地域の役立つ人を育てるものになってきているんですよ。実際、館長自身がワークショップができるぐらいまでなっておられます。

それと帰りに子どもが集まれないっていう話があったんですけど、この間、若井町の公民館に行って民生委員さんと話をしていたら、民生委員さんの車にはWi-Fiが通っていて、公民館に車を近づけると、部屋の中でWi-Fiが使えるようになるので、子どもが集まってくるという話をしておられました。そういう施設を子どもたちも望んでいるというのは確かにあるんですけど、入りにくかったりして、もったいないなあというところはやっぱりあります。

(教育長)

自由に入れる雰囲気ではないですよ。私でもどこから入ったらいいのかという感じです。もう少しオープンにできないんだろうかなと思いますね。

(委員A)

子どもの頃、学校から帰って公民館に行くと友達もいて楽しくて、ふらっと行ってました。

(委員D)

今は地域に子どもがいません。地域に子どもがいないから、帰り道にみんなで集まるっていう方が集まれる。でも寄り道はダメなんですよね。

(教育長)

小学生は学童に行けるからまだいいですが、中学生の居場所がなくて困っている。だから中学校と交渉するなりして、もうちょっと自由に立ち寄れる、せめて図書館と公民館を認めてくださいと、本当はもっと自由にしたほうがいいんだけど、とりあえずの入口としてそれをやりながら、一方ではもっとウエルカムな雰囲気を作っていくことが大事です。施設の職員も3人しかいないというけど、3人いるんですから。

(委員長)

公民館ではなくて、生涯学習課の職員が足りないんですよ。

(委員 D)

でもどこもそんなもんですよ。本当に教育委員会は人数が足りません。小野市も6人いるけど正職員は2人で、他は非正規という感じです。

(委員 C)

公民館職員が3人という話ですけど、本当にそんなに忙しいのでしょうか。

先ほど、人づくりと地域づくり・社会づくりの2つが大事だという話をしてくださったんですけど、この資料を読んでいると、グループ登録団体が最近減ってきており、声掛けをしているけど増えないと書いてあります。だけど、一方で、主催事業で部屋にも入らない担当者がいるという話も聞きます。主催事業の教室に入らないで人間関係なんかできるわけがないです。受付して、見送るだけで、その人たちが、何回かシリーズの講座が終わったときに、登録グループを立ち上げませんか、このまま活動していきませんかと本当に言えているのかなっていうのは思いますよね。

人づくりという意識があるのかなというと、公民館を開ける、閉めるだけじゃなくて、ちょうど4月で新しい館長さんも入られるので、是非とも公民館職員の研修もお願いしたいなと思います。

(委員 D)

そこにジェンダー視点を絶対入れて欲しいです。多分来年もアドバイザー契約をするので、ただで講師をしますから。

女性のリーダーさんとか女性の参加者の皆さんは、どうせ話を聞いてもらえないという思いをすごく持っていて。ちょっとしたことを聞いてもらおうと、聞いてもらえなかったというんですね。それはジェンダーの視点が抜けていると思います。

(教育長)

最近、直接、教育長室に来られる女性がすごく増えました。今まではどこに言えばいいのかわからないし、言ってもどうせ聞いてもらえないと思っておられたとおっしゃっています。もちろん、私が全部できるわけじゃないんですが、きちんと聞いてもらえた、こちらも誠実に話を聞いた。そのうえですぐそれができるかどうかは別としても、心に止めておく、本当は公民館もそうでないといけないじゃないでしょうか。

(委員 B)

資料を見て、良いことは書いてあるけど、どうするのかと思ったんですけど、最後の部分で納得しました。これから公民館だったりとか、オークタウンだったりとか、さっき研修の話も出ましたけど、職員の皆さんがこれを理解して、登録グルー

プだったり、教室生だっりに伝えていくことをしなかったら、神棚に置いてあるだけになっちゃうので、これを現場が知っているということが一番大事だと思います。今までも公民館の仕事が理解できないままで、とりあえずしないといけないことだけをやっておこうという人が多分たくさんいらしたと思うので、プラスアルファを頭に持てるような空気づくり、いろんな人に来館してほしいという空気づくりをして欲しいです。初めて行くときは絶対ドキドキしますし、何しに来たみたいな雰囲気が一番だめなので、そんなことがないようにだけお願いしたいです。

(教育長)

移動カフェみたいなものを作ったらどうでしょうか。

(委員 B)

お金を入れてもよいと思うんですが、昔は公民館に行ったら、お茶でも飲もうかという雰囲気、応接室によくお茶を飲みに行っていました。そこでこんなことをしたら面白いなあという話もしていましたがここ7,8年なくなったんで、最近はコロナもあったし、配置の問題もあると思うんですけどね。

(委員 D)

組織でもトップの意識ですよ。やっぱり知識とスキルとネットワークを持っていないと自分のアップデートもできないし、アップデートをどこでするかという研修もあるけど、やっぱり市民の声をどれだけ吸い上げているかっていう話ですよ。アップデートする気のない人はもうやめてもらった方がいいかもしれない。

これだけ時代の動くのが早いと、もうそろそろリタイアしないといけないかなと私も思っています。アップデートができなくなってきたら。

5. 報告事項

(1) 令和5年度生涯学習課の取り組みについて

(2) 令和5年度採用公民館長について

(事務局)

内示前ということで詳しくはお話しできませんが、中央公民館と北部公民館の2名の館長が定年退職ということで、新しく2名の館長に来ていただくことになりましたので報告しておきます。

(教育長)

お一人は女性にしたかったんですけどね。去年は女性に入ってもらったんで、やっぱり空気が動きますよね。視点も違うしね。やりたいことがある人がいいですよ。

(副委員長)

館長は公募するんですか？

(教育長)

公募します。なかなか応募する人がいないのもわからないわけじゃないです。週5日働いてこのお金ですから。でも、自分がやりたい事があったら、すごく面白い仕事だと思います。

(委員 D)

この間、聞いた話で、週2か週3勤務で副業をOKにして、30代、40代の人を呼んでくるっていう、それすごいと思って、最近いろんなところで70歳まで働くよという国の方針があるから、私らみたいなもう半分枯れているような人間が行きますけど、副業OKであれば週2ぐらいでも館長をしっかりとやってくれたらいいかと

思います。トップがしっかり構想を練って、部下に細かいことをやらせてもらえば良いわけですから。企業はそういう考え方をしています。

(教育長)

フットワーク良くやってくれる人がいいですね。民間をリタイアして、どうしようか、何かやりたいけど、みたいな方はいらっしゃいます。新館長ともきちんとコミュニケーションをとっていけば、いろいろわかってくださると思うので、公民館は今が変わりときだと思っています。

6. その他連絡事項

(1) 令和4年度社会教育関係年間事業実施状況表

(2) 令和5年度社会教育委員協議会事業計画

(3) 「令和5年度公民館への誘い」

(4) その他

(事務局)

連絡事項の(4) その他です。東播磨・北播磨地区社会教育委員協議会の令和5、6年度の会長について加西市が当番市となっております。また、それに伴い県の社会教育委員協議会の理事と、東播磨・北播磨社会教育振興会の会長も兼務で加西市が当たることとなっております。

現在この会議には、委員長に参加をいただいているんですけども、今日のこの会議の中で、どなたか希望される方がいらっしゃいましたら、代表として参加いただきたいと思います。

(教育長)

基本的に事務局である県がやってくれるらしいです。できれば40代50代の方で委員Bか委員Cどうですか？

(事務局)

会議と総会や研修会がそれぞれ3、4回あり、その中であいさつをしていただくこととなります。事務処理等は事務局が行います。

(委員D)

ノーギャラですね。県の社会教育はお金持ってないからね。文化財課はたくさん持っていますが、私も同じような仕事をしていても、教育委員会はノーギャラで知事部局になるとお金が出ます。

(教育長)

市から出せるかどうか考えます。

(委員A)

委員長と事務局一任ということで。

(委員長)

加西市社会教育委員の委員長も兼ねていただいた方がスムーズに行くと思います。

※委員Bと委員Cで調整していただくことになり、後日、委員Cで決定(任期は令和5年7月22日～)

7. 閉会

(副委員長)

長時間、いろんなご意見をいただきありがとうございました。

私の頭の中も、乾いた砂に水をやるようにずっと皆さんの意見が入って参りまして、考えることが多かったなと思っております。

ただ、どんな立派な計画がありましても最後はやっぱり人です。どんな拙い計画であっても、立派なすごい人がいれば、きちっと立派なことができるんですよね。

ですから、今回の計画にあります社会教育プロデューサーには期待しています。こういう良い人が来てくれたら全然違くだらうなと思いますので、教育長、人選をよろしく願いいたします。どうも今日は長時間ありがとうございました。